

令和5年度 横浜市学力・学習状況調査の結果について

全体チャート



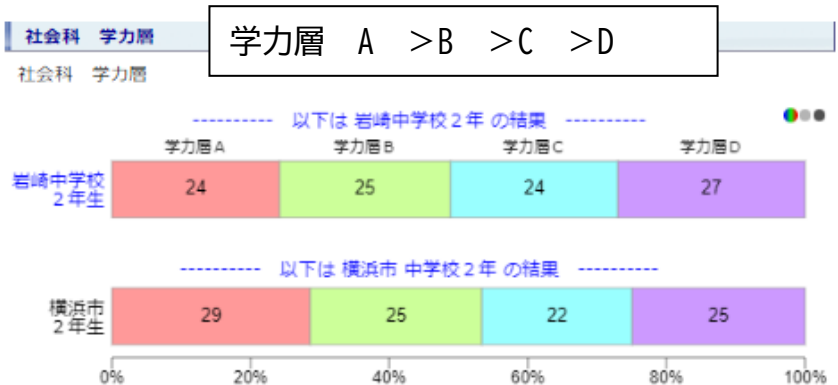
令和5年4月に全市で実施した調査であり、1年生にとっては入学直後の調査であり、小学校での活動が大きく反映していると思われます。

一方で、2、3年生については、前年度の学習状況について、どの程度定着しているかを測るものです。また、学習意識や生活意識については、中学入学後、どのような意識で過ごしてきたのかを答える調査でした。

1. 学力

2年生と3年生について、すべての教科において横浜市の平均並みかそれを上回っています。

今年度2年生（4月）のデータ



円グラフによると、社会科の学力について課題があるように見えますが、棒グラフのデータで考える必要があります。さらには調査の設問を細かく分析し、どの領域や分野について理解が不十分であり、どのような力の定着が課題なのかを見極め、補充的な学習を進めます。また、その内容を使った発展的な学習に取り組むことで、知識の蓄積ではなく、より深い理解につなげます。

2. 学習意識

中学2年生の『外国語に対する意識』において課題が見うけられます。なお、グラフのデータは次の2つの設問に対する生徒の回答から算出されたものです。

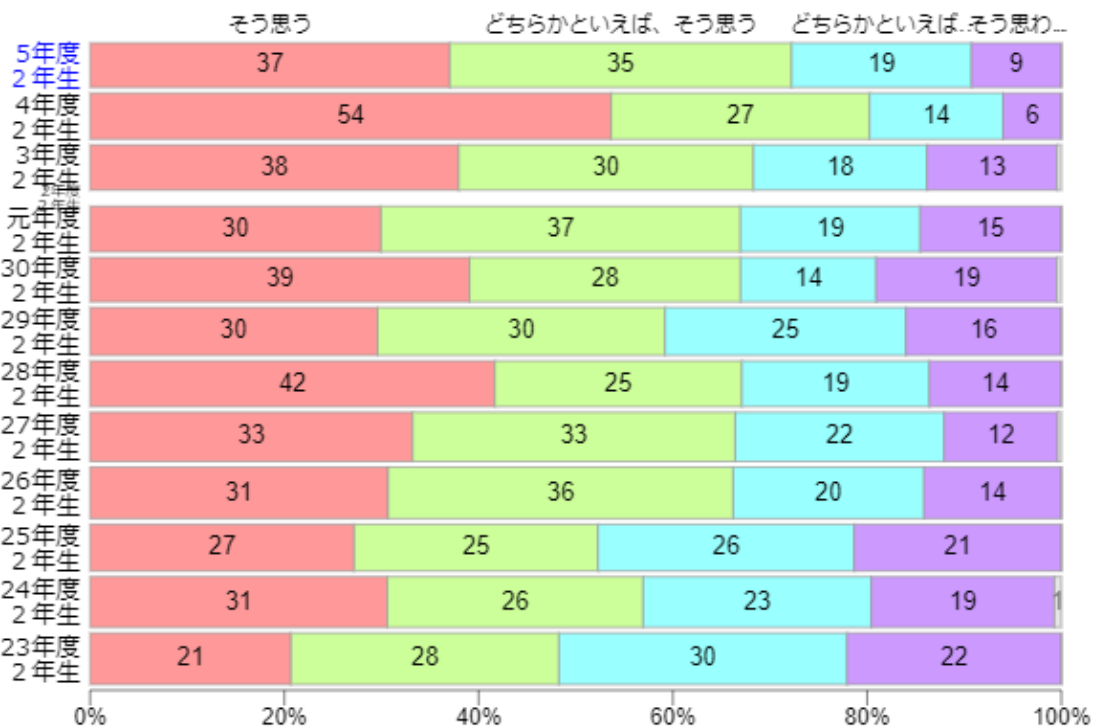
【設問】

- 64 英語で、進んでコミュニケーションを取りたいと思いますか。
 65 英語の学習では、外国人の先生（AETやIUI）が身近にすることで、英語で互いの気持ちや考えを伝え合いたいという気持ちが強くなりますか。

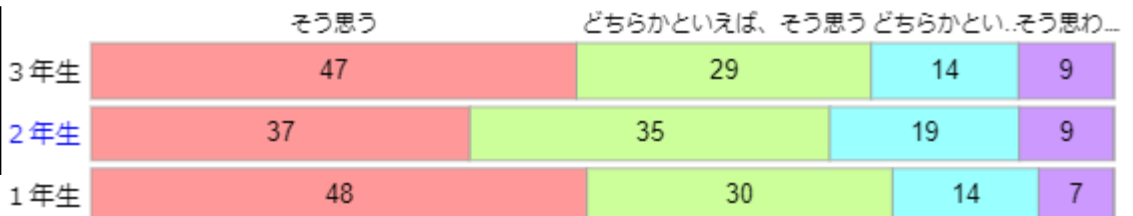
(1) 中学2年生は毎年そうなのか？ 現中学2年生の課題なのか？

【設問】「英語で、進んでコミュニケーションを取りたいと思いますか。」

過去の
同学年と
比較



今年度の
他学年と
比較

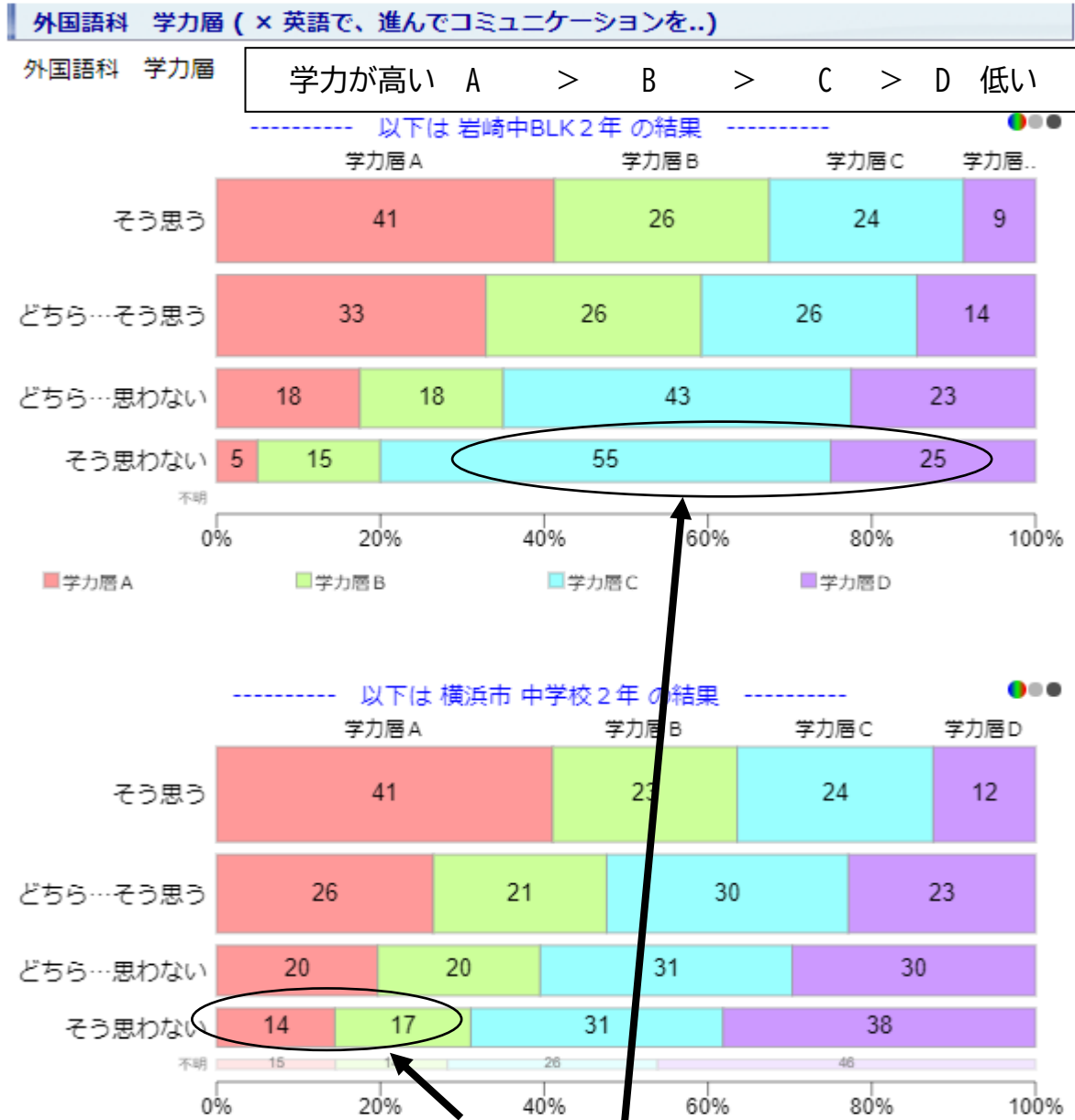


これらを見る限りは年度によると言えますし、毎年、同じような生徒たち入学するわけではありません。しかし、年々意識が高まる傾向がある中、本校での重要な課題と位置付ける必要があります。

(2) 学習意識と学力には、どんな関係があるのか？

《クロス集計》

学力 × 【設問】「英語で、進んでコミュニケーションを取りたいと思いますか。」



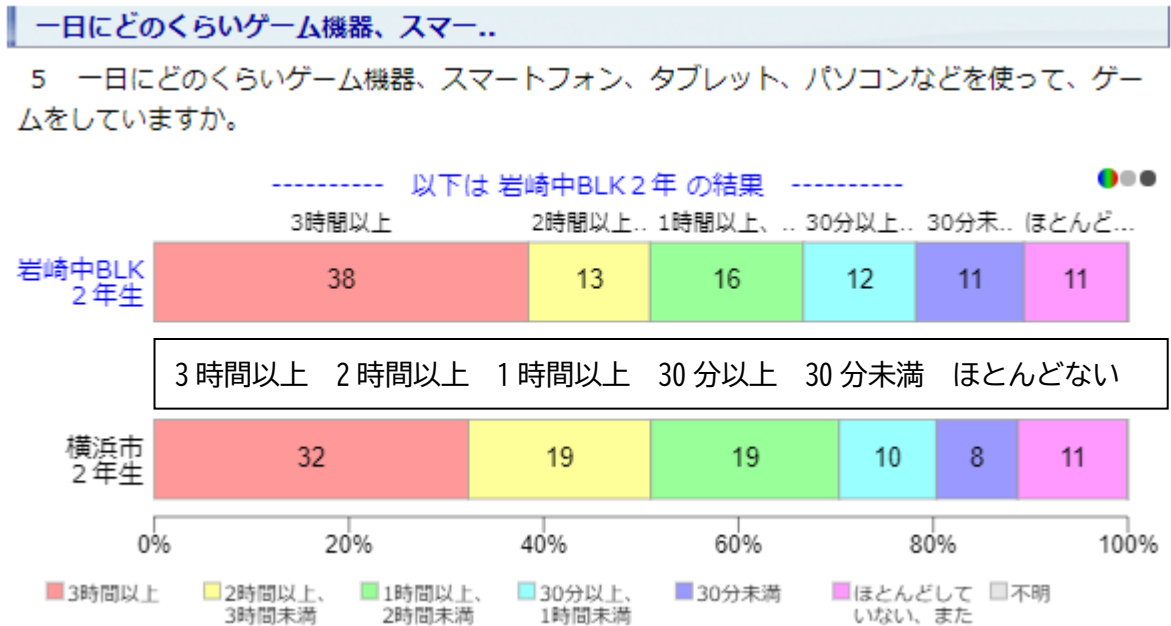
横浜市全体では、「そう思わない」生徒の中にも、学力層 A と B が約 30% いる。岩崎中では、「そう思わない」約 20 人の約 80% が、『学力層 C』『学力層 D』。学習意識と学力がより強く関係していると言える。

『学力層 C』 + 『学力層 D』 = 約 45% = 約 100 人

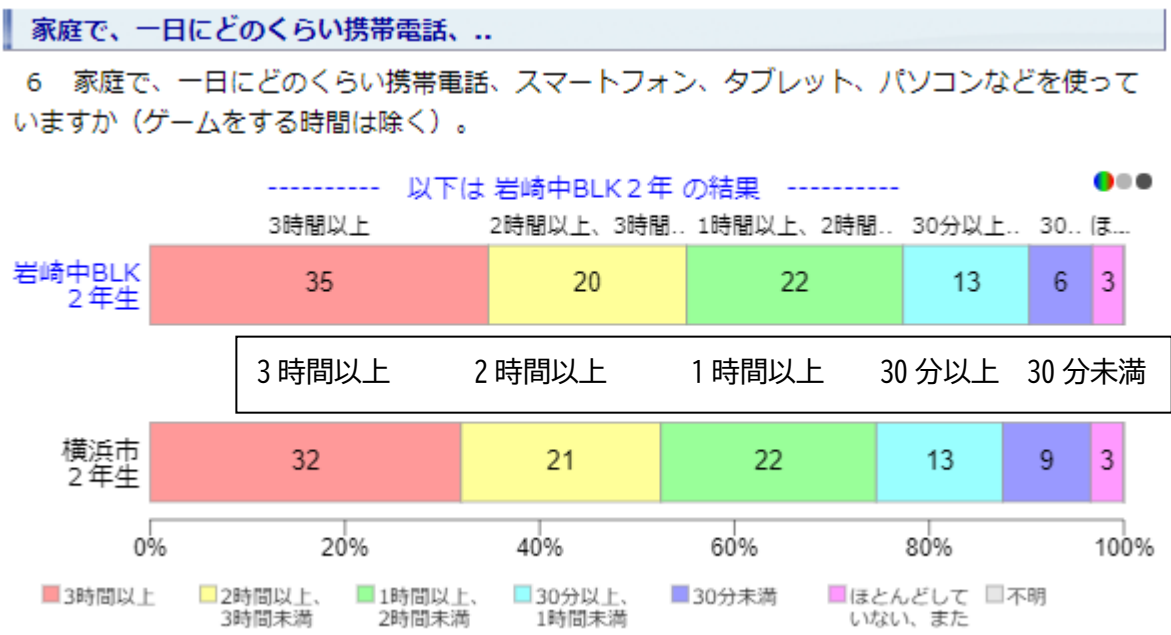
この約 100 人に対して、日々の授業でのコミュニケーション活動を充実させるとともに、学力の向上を通して自信がつくような支援を行います。AET を活用する授業では、単なるゲームではなく、実践的な言語活動を通して『やろう！』と『できた！』の相乗効果をねらい、表現力の育成を目指します。

3. 生活意識

(1) ゲームの時間

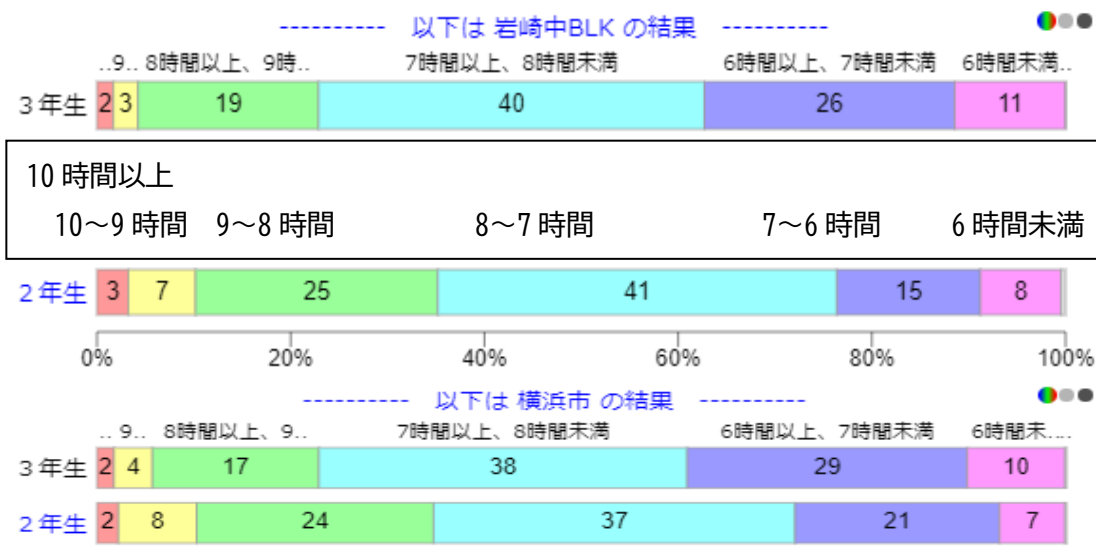


(2) スマホ等（ゲームを除く）の時間



(3) 睡眠時間

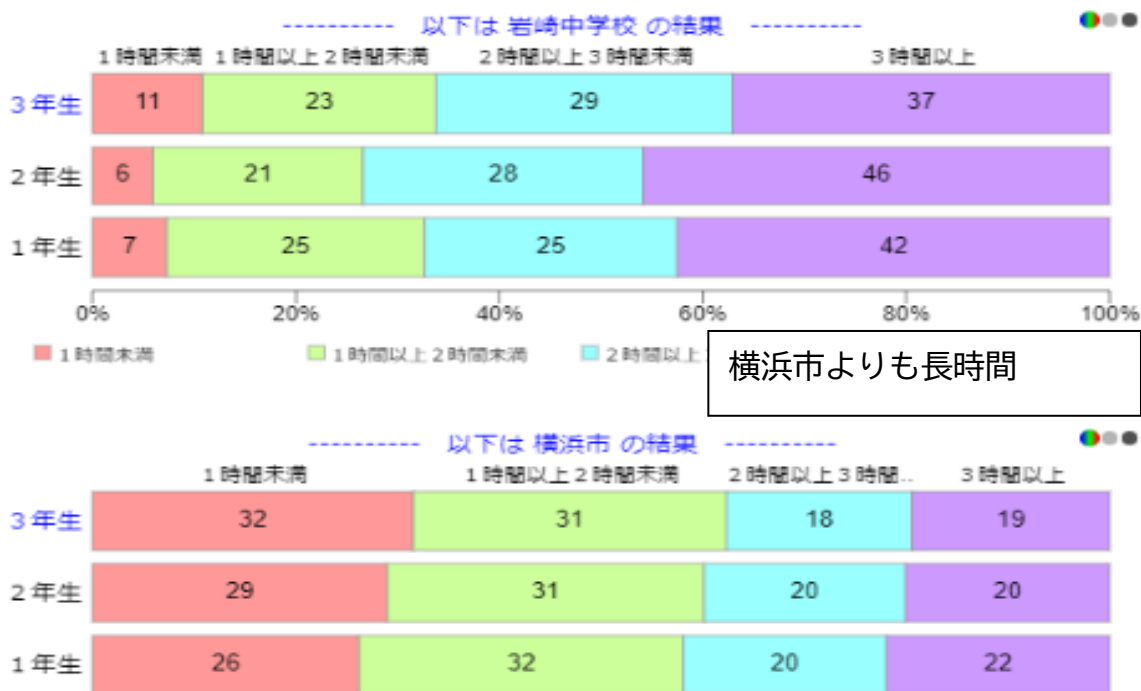
2 一日にどのくらい睡眠時間をとっていますか。



(4) 『生活実態調査』のテレビ視聴時間

1日のテレビの視聴時間 (対今年度他学年)

1日にどのくらいテレビを見ますか (テレビゲームも含まます)



(1) ~ (3) の設問では、岩崎中学校でも横浜市平均並みのデータであるが、別な調査である「体力・運動能力調査」の設問の中には、横浜市の平均を大きく上回るものがありました。

いずれにせよ、電子機器や ICT 端末に触れる時間について、調査の結果を踏まえて、はじめのあるバランスのとれたものにするようなげかけ、十分な睡眠時間を確保してほしいと思います。